

「自然とともに創造する 豊かさ」

四国経済連合会常任理事(帝國製薬株式会社専務取締役) 佐野 伸治



国土地理院のホームページに国土変遷アーカイブというコーナーがあり、空中写真閲覧が出来ます。このサービスでは、1946年1月から2006年12月までの約36万枚の写真が公開されています。当社のある東かがわ市では、昭和22年に撮影されたものが1番古く、見事な砂浜を備えた美しい海岸線が見て取れます。

1848年(嘉永元年)創業の当社は、本年160周年を迎えました。創業160周年を記念して整備した「史料館」には、明治初期の(当社の本社がある)三本松の古地図が展示してあります。昭和22年の写真は、鉄道こそ開通しているものの、その古地図と比較しても大きな変化は見られず、純日本的な建物が並び、その町並みを想像することが容易に出来るような気がします。

昭和39年の空中写真を見ると、東西に国道11号線が開通し、コンクリートの建造物が増え、街がにわかに活気付いている感じが感じられます。昭和43年になりますと、海岸線には護岸設備や港湾設備が目立ち始め、路地のようだった道が太くなり、新しくなっています。

さらに平成12年になると、翌年に開通する高松自動車道が東西に伸び、太く力強い様子が見て取れます。その一方で残念な事に、白砂青松

の海岸は姿を消しました。

こうした街の変化は、災害が少なく安全な国土をもたらし、また、至便な交通網を築きあげました。加えて、戦後の近代化は国民の生活を格段に向上させたと思います。平均寿命は、世界有数の長寿国といわれるまで伸び、その一方で少子化が進んでいます。

しかしながら、地球温暖化が問題視され、増え行くCO₂排出に対するさまざまな取り組みを求められるようになりました。ゴミの問題、リサイクルに対する取り組みも然りです。まさに、多くのものを得てきたが、失うものも多かったと、痛切に感じます。

私は、今まで失ったものをどう取り戻すか、失われようとしているものを避けることは出来ないのか、加えて、得てきたものとどう共存していくかが、今後の我々に課された問題ではないかと思うのです。

創業200年を目指すわが社においても、創業当時の初心を忘れる事無く、輝ける社会の構築に寄与すると同時に、次代を担う方々に対し、胸を張ってお渡しできる種々の環境整備に力を注ぐことも、極めて肝要だと改めて考えさせられます。